

手をつなご!

まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

大きな力に
なりました

この請願活動は今年の春から「生活クラブ生協寄居支部」とともに進めてきました。そして、多くの方々にご協力をいただき集まった535筆の署名を添えて、請願書を6月議会へ提出することができました。紹介議員は小此木議員と吉田(正)議員。打ち合わせの過程で聞いた「町と資源循環工場との関係を考慮しながら、進め方は丁寧にしていきましょう」という小此木さんの助言は、町の意識と姿勢を物語っている一言でした。そういう点で若干の不安はありましたが、議会では文教委員会に付託された結果委員全員の賛成が得られ、議会の最終日に「全会一致」で採択されました。その後寄居町は国へ意見書を提出しています。

この請願活動は全国規模で進められてきました。採択され国へ意見書を出した自治体は、埼玉県では31自治体(十継続中が6)、全国ではなんと294自治体(4728万人)にもなり、並行して進められていた国会請願では、紹介議員が超党派で215名にも

「容器包装リサイクル法の見直しを求める意見書の提出」を求める請願

遠藤明子

および、署名総数は94万筆も集まりました。通常国会においては「審議未了」という結果でしたが、このような大勢の市民の働きかけは大きな力となりました。経済産業省や環境省においても、また自民党や民主党でも容器包装リサイクル法の改正に向けた具体的検討を予定より早く始めるなど、政治や政党を動かすことができたのです。

この活動を通じ「容器包装リサイクル法の問題点」が全国的に認識されたという点でも大変意味があったと思います。そして、あらためて私たちの暮らしと政治とがつながっていることを実感するものもありました。

今回の署名活動はひとつの通過点です。政府や政党による本格的な議論はこれから。まちネット寄居でもこの行方を見つめていくつもりです。日々の暮らしの中で、私達一人一人も、自分なりに考えて自分のできることから努力し続けていきたいですね!ゴミの減量は自分の足元からも…。

荒川流域ネットワーク 一斉水質調査

五の坪川を加えて調査
参加者8名

6月、生活クラブ寄居支部とともに調査しました。今年は高温で雨が少なく、全般に汚れの数値は大きくくなりました。主な地点の調査結果です。

上段COD値(化学的酸素消費量、汚れの指標として使われる)と下段界面活性剤値(水道法の基準値では、0.2PPM)を報告します。

● 五の坪川(上)	10	1
● 五の坪川(下)	13	1
● 正喜橋	5	0.7
● 花園橋	10	0.7
● かわせみ川原	50	1.5

今年の界面活性剤の数値が大きいくことが気になりました。原因を追及していきます。市民活動のバックテストを使つての測定は、継続することで身近な河川の水質の状況を把握することができます。町での調査と比較していくことも必要です。

みんなでお調べよう

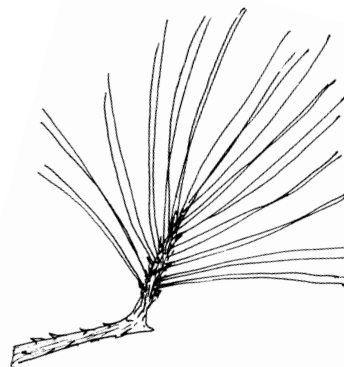
松葉ダイオキシンの調査

8月1日事前学習会 20名参加

環境総合研究所 池田こみち氏を招いて

資源循環工場と環境を考えるひろば 生活クラブ生協寄居支部 生活クラブ小川支部共催
小川町竹沢公民館にて

大北秀子



焼却強化の国策

容です。これでは、実際に24時間稼働の排ガスの大きな変動は全く反映されません。おまけに事業者自身が行うため自作自演のアリバイ工作といわれても仕方のないことです。1999年、焼却天国だった日本の大気中ダイオキシン放出量は、年間4.8kg。実に世界中のダイオキシン類の半分を発生させていたといえます。

ます。その後、生活クラブ連合会の提案で生活クラブグループ、グリーンコープなどでこの調査が行われてきました。松葉は、大気中にあるガス状、粒子状のダイオキシンを呼吸（炭酸同化作用）を通じて、組織内に長期にわたり蓄積しています。大気中のダイオキシンは、松葉の新葉から急速に蓄積され、約4ヶ月以降で濃度変化が少なくなくなり、いったん蓄積され安定するとその後は大気中の平均濃度に連れ、その松葉内のダイオキシン

世界中のダイオキシンの

半分は日本から放出

ン濃度が上下することが確認されています。このことから4ヶ月以上経過し、6ヶ月以降の松葉を用いることで地域の大気中平均濃度を測定することが可能となります。

また、この調査は
① 市民が誰でも参加できる。
② その結果は参加した市民に共有できる。
③ その地域の年間大気中ダイオキシンの平均濃度がわかる。
④ 得られた複数の点データから地域全体の面的状況が得られる。
⑤ 測定の仕方により発生源を特定することも可能。

といった優れた方法です。現状の国の排ガス測定マニュアルでは、燃焼が安定した4時間の排ガス測定を年に数回といった内

松葉は有効な環境指標

松葉は、従来より大気中の汚染物質、重金属などの測定分析の植物指標として活用されてきました。1997年には環境庁が松葉によるダイオキシン調査を実施してい

「彩の国資源循環工場」が稼働する前に市民の手で今ある環境調査をしておこうと、平成15年より大型トラックなどの排気ガスの影響を調べるためNO₂測定（二酸化窒素）を、調査ポイントを広げて実施してきました。そしてもうひとつが松葉によるダイオキシン調査です。この調査は、「彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば」が全労災の助成金を受けて実施します。調査に先立ち事前学習会を開催しました。講師の池田先生のお話は明快で、その内容は今後の私たちの活動に大きな元氣と勇氣を与えてくれました。

今回の学習会では、松葉のダイオキシン調査に関連して、日本のごみ処理政策の課題や今後の目指すべき方向、戦略といった広い視野で、これからのごみ問題にどう取り組んでいったらよいのかたくさんさんの提案、指摘をしていただきました。現行の国の政策は、そのまま彩の国資源循環工場の方向です。処分場の新規建設が困難であるため、廃棄物の圧縮を進め、さらに焼却、溶融して埋め立て物の減量化を推進。高温連続焼却でダイオキシン発生を抑えるといった理由で、広域大型焼却炉へ補助金を投入し「焼却強化」の方向へ。しかし、高温焼却やガス化溶融でダイオキシン濃度が下がっても、重金属類、ダイオキシン以外の膨大な種類の有害化学物質の放出はされてしまいます。地球温暖化を促進する二酸化炭素の増加、天災、

人災時の危険性、またそのリスク管理の不透明さ。これらの環境、健康、財政リスクの大きさを正しく認識する必要があります。今回私たちは、減容のための廃棄物圧縮工程による、ダイオキシン、その他の有害化学物質の発生に大きな危機感を抱いています。これらの処理工程では全くこれらの調査はなされていません。資源循環工場においても同様なのです。さらに、産業廃棄物、事業系一般廃棄物は、本来事業者の責任で行うべきです。公共関係では責任の所在が曖昧になってしまっています。

自治体でも調査

松葉のダイオキシン調査は、以前より耳にしていましたが、そのデータの有効性からも私たち市民活動の大きな力となることを確信しました。

千葉県柏市、東京杉並区でも市民の要望から松葉のダイオキシン調査を行っています。彩の国資源循環工場対策として、寄居町、小川町の5地域に環境協議会が設置されています。

工場の汚染状況を知るためにも私たち生活者の不安を少しでも解消する意味からも、環境協議会による次年度以降の松葉ダイオキシン調査の継続を要望していきたいと考えています。

環境広場立ち上げからの経緯について

資源循環工場と環境を考えるひろば代表

関川和博

1970年頃のオイルショックを教訓に石油に変わるエネルギー資源として水素の研究が始まった。

日本は周りを海に囲まれているので太陽電池のいかだを海に浮かべて海水を電気分解し水素を発生させる計画が始まった。水とエネルギーがなかったら人類は機能しなくなる。水素はエネルギーを発生したあと水になり、水から水素を得る工程こそが真の循環型である。水素は水を始めとする化合物として自然界に存在するため分解が必要になる。水の分解は他の方法に比べて容易ではなく、水がとても安定していることを裏付ける。21世紀を目前に石油資源を消費し続けてきた付けが回り、地球温暖化防止対策が急務となった。

更に、焼却に依存してきたゴミ処理にも歯止めが必要になってゴミも再資源化する時代を迎えた。水以外の水素化合物にメタンガスがある。

微生物を使って生ゴミや家畜の排泄物からメタンガスを発生させてガスエンジン等で燃焼して発電した場合、輸入原油の1割分を節約できるそうである。

使い捨ての時代から循環型社会への転換期を迎えて、ゼロから始まる「彩の国資源循環工場」には真の循環の要素が含まれていないのがとても残念だ。

生活クラブ生協小川支部・生活クラブ生協寄居支部・まちネットワークよりいで組織する「資源循環工場と環境を考えるひろば」では、既に着工している循環工場の監視やダイオキシン等の調査を続けていく一方講師を招いての勉強会を行う。(4月)藤原寿和先生と(8月)池田こみち先生を招いて勉強会を行った。

今後、真の循環工場について県や町に要望したり、提案していきたいと考えている。

去年と

今年の

フリーマーケット

高橋ゆき乃(小学生)

今年の春もフリーマーケットで品物をお手伝いをしました。去年は役場の隣の外だったので寒かったけれど、今回はあたご記念館の中で逆に暑かったです。私は、大きな声でいろいろな言葉を掛けて呼びかけました。お客さんは反応があつたりなかったり、反応しただけで行ってしまったりいろいろでした。去年は私のことを気に入って買ってくれたお客さんがいました。ほかに握手をしたり、100円に値引きしたものを200円で買ってくれた人もいました。お客さんと触れ合うのは楽しく売上も多くてよかったです。



6月

議会 傍聴

しました

● 人事の交替・議長

選出は根回し通りとならず複数立候補となり大慌ての投票へ。以下、承認を得ては休憩の繰り返し。時間の関係で請願の発議は聞けず。あきれる思いの中1日目を終了。

● 町長への質疑・「合併協議会

への様々な論が交わされたが、離脱が採択され、その後住民の意見を求める機会もなく花園との2町合併が浮上。花園議会では住民アンケート調査に踏み切ったが、寄居町では1転2転として内容がよく理解できない。住民投票、住民アンケートをぜひ要望したい。」

● 町長答弁・「町民が選挙で選

んだ議員の審議で合併は必要と決まった。したがって、住民投票、アンケートは一切考えていない。

今、花園議会で議論されている？」

意味不明の答えに愕然とする。花園との合併を考えているのであれば、花園のように同じ目線に立ちどのような方法で意思疎通を図るのか、住民の合意を得られるのか町長の思案が問われて当たり前で、

考えていませんではあまりにも無責任すぎる。傍聴のつどあきらめきれずに思うのは、声はすれども姿は見えず。傍聴席からは、議員の姿は見えず、お役人さんご対面の設計。まことに不思議な空間なのだ。

● 傍聴経験のない方、是非一度体験を！

(N.M)

一言 言わせて

篠原 由実子



先日、我が夫は、15日間の入院を終えて無事帰宅した。結石のため肝臓を切ったのだが、支払った自己負担額(3割)は、40万円。

彼は、10年前にも別の病気で入院したが、当時は、外来が2割負担、入院は1割負担であった。年金問題も然りだが、社会保障の不確実性は強まるばかり。将来に向けて地道に自衛手段を講じていかねばならないのだと痛感させられ

た。年寄りになってもタダでは医療にかかれないうし、介護サービスも受けられない。ある程度の仕組みとサービス利用のポイントくらいは「転ばぬ先の杖」と心得たいものだ。とは言え、日々の生活に追われ「明日は我が身」と取り組む暇はなかなか持てないのも事実。しかし、サービスは向こうからやっては来ない。人任せでは楽しい老後は望めない。

バブルがはじけてから、金をかけずに福祉を充実する方策、医療費や介護保険費を減らす方策が検討されて来たが、結局は、『地域福祉』や『介護予防』など、国民の自助努力に頼るほかないらしい。

ならば「社会的支援」を必要な時に、無理なく受けられるよう、『保健・医療・福祉の包括的な支援体制』を是非とも充実すべきだ。簡単に言えば、窓口ひとつで「私の場合は？」に答えてくれる行政サービスである。医療と福祉に精通した人材が、広い視野からアドバイスをくれたり、手続きを手伝ってくれるならば、どんなに不安が軽減することだろう。経済的にも精神的にも大きな不安を抱いたまま老後に突入するのは、とても耐え難い。

老後を支える社会環境を整えるために、今なすべき事を考え行動しなければいけないだろう

定例会と これからのお知らせ

★9月13日(月) 10時から12時
男衾コミュニティセンター

原則毎月第2月曜開催。気軽に意見交換しあえる場です。お顔出ししてください。

★秋の活動予定 タウンウォッチング ドイツのゴミ事情を聞く会
10月17日(日) トンボ公園音楽祭参加など。

編集後記

「暑いですね！」と今年も何回言ったことか。記録的な猛暑の夏も終わるのだろうか。地球温暖化が当たり前のように口にされているが、物の溢れた暮らしも、大量にゴミを出す便利な暮らしも変わらない。物の溢れた暮らしも変わらない。11月のフリーマーケットに出店予定。不用品でもまだ十分使える物、家で眠っている物、是非ご提供ください。

